

令和4年度 第2回 岡崎市防犯活動行動計画策定委員会議事録

1 日時

令和4年12月21日（木）14時00分から

2 場所

岡崎市役所西庁舎 701号室

3 出席委員

樋野公宏、永田英巳、田口竜也、長坂秀志、秋山佳子、杉原恵美子、小野美菜代
片山鑛一、坂本彩

4 欠席委員

吉田さりな

5 傍聴者

なし

6 事務局

市民安全部長：桑山拓也、防犯交通安全課長：岡田武士、
防犯交通安全課副課長：加藤力、防犯交通安全課生活安心係係長：天野涼太
【計画策定支援業務受託事業者】

三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社

政策研究事業本部	研究開発第1部（名古屋）	主任研究員	小森	清志
	公共経営・地域政策部	主任研究員	中井	浩司
	公共経営・地域政策部	研究員	土方	孝将
	研究開発第1部（名古屋）	研究員	吉田	夏稀

7 議題

- (1) 市民意識調査結果について【資料3】
- (2) 第6次岡崎市防犯活動行動計画（案）について【資料4】

8 議事内容

(1) 委員長あいさつ

本日はご議論いただくのは第6次岡崎市防犯活動行動計画についてです。案の段階ではあるが立派なものが出ています。この後、市民の皆さまからご意見をいただくパブリックコメントを1月に実施し、3月に公表というスケジュールを予定しています。本日の委員会では皆様からご意見をいただき、さらに良い計画となるよう活発なご議論をお願いします。

(2) 市民意識調査結果について

【事務局 MURC】 (資料 3 に基づき説明)

(3) 第 6 次岡崎市防犯活動行動計画 (案) について

【事務局天野】 (資料 4 に基づき説明)

(4) 意見交換

【永田委員】

犯罪被害者の支援条例の制定について、3月25日に県で条例が制定され、本計画にもいち早く計画に盛り込んでいただきありがたい。犯罪被害者の支援は犯罪が発生してから支えるということで、金銭面も含めて対応が難しいと聞いている。

防犯カメラについて、警察での利用方法について説明したい。岡崎市では1,050台の街頭防犯カメラを整備していただき非常に助かっている。犯罪発生後、目撃証言をとっても客観的な証拠が必要となり、防犯カメラの映像や押収した携帯電話のデータが有効である。ネットワーク化を進めると、照会によりいち早くデータを確認することができ、レスポンスタイムが早くなる。アンケート結果にもあったように、犯罪抑止効果も高いため、犯罪の多い地域や駅前に付けてもらえると良い。

警察でもパトロールはしているが、「ながら見守り」という形で市民が実施すると犯罪抑止につながる。今の時期は光るアームバンドは交通事故防止にもつながる。

「アイチポリス」の認知度が低いのが残念だった。他方で、警察の情報を岡崎市がメールマガジン等で発信していただいているので、今後も連携をお願いしたい。

市民の意見を聞く機会がこれまで少なかったため、今回のアンケート結果を受けて犯罪抑止に繋げていきたい。

【樋野委員長】

「アイチポリス」については思ったような結果ではなかったが、計画の中でも情報発信を推進していくと記載があるので、引き続き警察と市で連携していけると良い。

【片山委員】

防犯カメラについて。抑止力と事後処理の2種類の使い方がある。抑止力にプラスして、例えば、夜間に女性の後ろに男性がいるような一定の条件でカメラからフラッシュライトを点灯するようなことができないか検討いただきたい。

防犯灯は電気が使いにくいところもあるかと思うが、予算の問題で難しいかもしれないが太陽光を使った防犯灯の導入を検討していただきたい。

計画としてまとまってきているが、アウトプットをもっと検討していただきたい。若い方は SNS 等を見る機会があるが、お年寄り等には身近ではないため、町内の回覧板等も活用してはどうか。

【樋野委員長】

カメラはご指摘の通りいろいろな使い道がある。実用化されているものとしては、お年寄りがうずくまっているようなケースにアラートを発して知らせるようなものがある。計画期間の間に技術はますます進展していくため、それを見越した計画とするのは良い。

太陽光については計画内に記載があるためご確認頂きたい。回覧板等の周知方法について事務局の考えは。

【事務局天野】

アウトプットについては、犯罪発生状況を細かく整理し、対策を含め、地域別にわかりやすく情報を発信し、わがまち意識を高めてもらう。高齢者への情報発信については、現在、福祉部局と連携して定期的に会議を実施し、高齢者に向けた情報発信を推進している。また高齢者はネット等を確認するのが難しい状況もあるため、回覧板等は定期的実施していきたい。

【樋野委員長】

いろいろな媒体を組合せて広く知っていただきたい。

【長坂委員】

学区別の犯罪発生件数を流している。総代会で資料を示し、具体的な対策をお願いしている。

4月から12月まで自作の回覧板を作っているが、その中で一番興味を引くのは、身近に起きた犯罪の実態である。警察とも協力して特殊詐欺防止機能付きの電話の導入を市の補助金を使って対応したが、それでも普及が進まず学区で残りの半額を補助するというところでやっと70台の導入になった。

アンケート結果では、やってほしいけど自分はやらないということが読み取れる。自分で対策しようという意識が低く、自治会の役員等が実施することになる。そのような中では、「ながら見守り」の浸透にも時間を要すると思う。外出するときに防犯の帽子をかぶるようにお願いしているが、なかなかやってもらえない。見える形で見守りも合わせて実施することで効果がある。

目標指標は毎年減少としているが、現時点で令和4年度は増加している。時代の流れによって犯罪が減少する。コロナの影響で失業した人やお金に困っている人も多く、そういった社会情勢も踏まえつつ、再犯も防止していくような取組が必要である。

【樋野委員長】

参加意識についての数値目標は野心的な数値ではあるが、意識を高めていこうという姿勢が表れていると思う。

コロナの影響があり犯罪発生件数が減っていたため、そこからさらに数字を下げるのは難しいが、目標を下げずにこの数字を達成していただきたい。コロナの影響を考慮した上で計画評価をするということもお願いしたい。

【田口委員】

アンケートで防犯カメラの効果があると回答されている。1,000台の防犯カメラが設置されたが、岡崎市の人口と比較すると380人に1台という状況であるため犯罪抑止のためにカメラを増やすべきと考える。防犯カメラによる安心・安全は、水道電気と同じインフラだと考えている。一部の人しか享受できない施設をつくるよりも多数の市民から要望があることであるため、今後も積極的に対応いただきたい。検挙が最大の抑止と言われるとおりに、カメラを増設することで市民の安心感は高まるように思う。

【樋野委員長】

警察で実際に防犯カメラのデータがどのように使われているか説明があったが、さらに設置したほうが良いというご意見だった。

今回の計画の中でも、防犯カメラについては細かく記載があるので、是非推進していただきたい。

【杉原委員】

犯罪被害者支援について、年間の相談件数は少ないものの重点施策の中に入れたと説明を頂いた。少ないからやらないという判断ではないことが素晴らしいと思う。ただし、なぜ取り上げたかはおさえておくべきだと思う。

また、アームバンドを使ってアピールするという事は効果的だと思う。

不審者の防犯侵入訓練を実施したことがある。教員経験があるが、大阪教育大付属池田小学校以降、毎年どの学校も不審者訓練をしていると思う。教室のどこから侵入して、子どもをどう誘導して、先生はどう行動するのかということを学んだため、訓練を形骸化させず続けることが重要だと思う。

役をもらったからボランティアをやった人が多いが、意味のある取組であることを考えると、地域のつながりを大切にしてボランティアに参加する機会を与えていくことは重要だと思った。

【樋野委員長】

被害者支援については条例の制定が重点施策となっている。

池田小には事件の後訪問したことがあるが、訓練等は形骸化しないことは重要なメッセージだと思う。

参加機会については、ちょっとしたきっかけで必要性に気づくことがあるため、グッズを使いながら地域の活動に参加していただく

ようになれば良い。

【小野委員】

保護者等からも言われているが、工事か何かであまり使われなくなった道があり、そのような道には防犯灯が欲しい。地元の人の中にはそのような道を生活道路として使っているのも暗いと危ない。暗いので子どもの送り迎えが必要になるなどとも聞いている。そのような場所にも目を向けて欲しい。

【樋野委員長】

人口が減ってくる中、人が通らない道路が増えており課題となっているという実例である。

【事務局天野】

防犯灯については、課で設置しているのは既存の電柱に付けるものである。電柱が無い場所には、地域の要望を基に交差点等に道路照明灯を設置することで補完している。

計画案の75ページに記載があるように、地域の要望を基に設置を進めていきたい。PTAの中で暗くて危険だとか、人があまり通らないが通学路になっているなど意見があれば総代会を通じて要望を出していただければ対応を検討していく。

【樋野委員長】

歩くのは基本子どもであるため、その声を拾うPTAの役割は大きい。PTA内で意見があれば、是非、要望として出していただきたい。

【坂本委員】

「ながら見守り」について、12歳離れた兄弟がいるため、帰りが遅くなると心配する親の気持ちがわかる。アンケート結果では、送迎時の見守りや買い物行き帰りの見守りができるという割合が高い。志の高い方は帽子やビブスをつけるが、そういった活動をしたことの無い人にとっては、いきなりグッズを付けるのはハードルが高い。妊婦のマタニティマークのような付けやすい目印になるものがあると良い。

アームバンドを見せていただいたが、太くて大きいのは良いが、少し重かった。アームバンドはランニングや散歩など手ぶらのときに使う周知とすると女性も使いやすいのでは無いか。

来年から保育士として働くが、保育の現場はまだまだ女性が多い。防災については訓練を月に1回実施しているが、防犯となると対応が難しいので、女性が多い状況でどのように対応できるかを市とも連携して学べると良い。

【樋野委員長】

小さな目印が良いということで、アームバンドとしか書いていないため「等」を追加する、キーホルダーも記載しても良いだろう。

保育園の訓練についても計画の対象となっているため、取組を推進していただきたい。

- 【秋山委員】 現状の実態把握の中で、都市宣言の認知度が低いことが分かった。世代別に情宣して認知度を上げていけると良い。
- 「ながら見守り」の推進は良いと思った。気軽に一步踏み出せる取組だと思った。アームバンド等については、身に付けることにハードルが少ないグッズがあると良い。
- 【樋野委員長】 都市宣言は計画周知と合わせて様々な工夫をしながら周知に努めていただきたい。
- 手軽さや可愛さのあるグッズは良いと思う。
- 【事務局桑山】 犯罪被害者等支援条例については、愛知県内で条例を制定している自治体は2市しか無く、愛知県は遅れている状況と認識している。目標年度をまたず、出来るだけ速やかに作成していきたい。
- 防犯カメラや防犯灯における再生可能エネルギーの活用については、DX化や脱炭素先行地域としてゼロカーボンシティを目指す中で意識した計画にしたい。AIの活用等により防犯カメラの利用の高度化、例えば、女性の悲鳴や、人がうずくまっている状況等への対応ができるように今後の技術的な発展を踏まえて市としても対応していきたい。防犯灯についても、太陽光発電を利用しつつ、三菱自動車の廃バッテリーを活用していくことも、脱炭素の計画には載っているため進めていきたい。
- 「ながら見守り」への市民参加は難しいという意見もある程度あったが、最終的に目指すところは、目印が無くても岡崎市民は防犯意識が高くみんなで見守っているという状況である。従来からのボランティアによる見守りだけではなく、常に岡崎市38万人の目があるという地域であることが認識されれば、犯罪抑止にも繋がっていくと思う。そのためにも、まずは都市宣言をした市だということを住民の方に認識していただき、安心・安全なまちを目指していきたい。貴重なご意見ありがとうございます。
- 【樋野委員長】 計画の方向性については賛成していただけていると思う。細かい追加や修正はあったが、大きな方向として問題なければ挙手をお願いしたい
- 【各委員】 全員挙手。
- 【樋野委員長】 これにより、すべて承認されたものとする。